

阿部興業2013新商品 & 大商談会

新商品を年間50アイテム開発

新規市場や海外市場への展望を解説

400社、500名が来場

阿部興業（東京都新宿区、阿部清英社長）は7月23日と24日の2日間、東京都新宿区の本社ショールームにおいて「2013新商品&大商談会」を開催。期間中は取引先約400社、500名が来場した。

今回の商談会では「日本・ASEANキャラバン展示」と題し、国内市場と東南アジア諸国などの海外市場の両面を見据えた体制を提案。国内及び海外での商品提案力の強化を打ち出した。



多数の来場者で賑わう会場



集合住宅向けの新柄内装ドア

同社では年間50アイテムの新商品開発を計画。会場では新開発の商品の機能説明が行われた。扉の上部が独立して開閉できる「災害対応ドア」を開発。地震などで扉の前に家具が散乱したとしても、扉の上部が開閉できるために緊急脱出が可能になる。通気遮音ドアは扉の内部を音と風が通過することによって高い遮音性能と通気性を実現。防音ドアはT2基準とT4基準をクリアした2種類を用意。T2基準の製品は親子ドアや両開きもあり、会議室などの用途にも応用できる。T4基準の製品は片開きドアで約40デシベルの音

をカット。個人宅のシアタールームや楽器演奏用の防音室を想定している。欄間付きユニットは欄間部分が開閉できる内装ドア。扉を閉めた状態でも換気が可能になる。3連引戸は最大有効開口を1216mm確保。可動（無双）格子入り框戸は日本古来の無双のメカニズムを採用。格子を動かすことで扉を開閉せずに風と光を室内に取り入れることができる。

きめ細かい受注生産対応

集合住宅向けの商品では、大手印刷企業が開発した最新柄を用いた新デザインのフラッシュドアを実物展示。新柄8柄は女性デザイナーの感性を取り入れ、従来よりもVカットの帯を下げるなど、随所にデザインの工夫を施した。新柄は受注生産品であり、特注対応も可能であるなど柔軟な受注体制が特徴となっている。

和風建具では、特殊加工の化学和紙を採用した太鼓張り障子や、框に引き手加工を用いた障子など、従来の製品に特徴を加えた商品を訴求。内装リビングドアの製品では「エクストラ」シリーズに新商品を投入。白柄を基調とした「エクストラ・プ